

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

全員が輝ける、サポート充実のスポーツを柱とした地域の総合拠点校として地域の将来を担う人材やトップアスリートを育成する学校。

- 生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
- 激動する社会で活躍できる学力や社会人として必要な礼儀等を身に付ける学校
- 互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
- 将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献・社会的自立のできる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 確かな学力の向上

- (1) 生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用。
 - ア 学力生活実態調査や教育産業による学力分析システムで生徒自身が学力定着度を確認するための生徒1人1台端末の活用。
 - イ プレゼンテーションソフトや各種アプリケーションソフトを活用し主体的な学びを深めるための生徒1人1台端末の活用。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:61.2% R4:81.2% R5:89.6%→R8:100%)
- (2) 教員の授業力の向上
 - ア 授業力向上プロジェクトチーム(JKP)を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を推進することで読解力・思考力・表現力を育成する。
 - イ 生徒による授業評価の活用。教員の公開授業、研究授業を含めた校内研修の推進。外部者への授業公開。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:55.6% R4:60.2% R5:75.5%→R8:85%超)
- (3) 大塚プレミアム(1・2年補習・講習)・大塚プレミアム+(3年進路向け講習・講習)の組織的な実施。
 - ア 各教科・進路指導部・教務部が連携した、講習・補習の実施。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目を追加し肯定的回答率を向上させる。(R5:72.0%→R8:80%超)
- (4) ICT機器を活用した授業の推進
 - ア 学習支援クラウドサービスを利用し、教員1人1台端末を活用した授業力向上教員研修・学習会の実施、好事例の共有。
 - * 教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:88.9% R4:90.9% R5:97.2%→R8:100%)

2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす

- (1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。
 - ア 職業調べや探究活動を通して、将来の進路や生き方について考える力を育成する。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:85.6% R4:89.1% R5:91.9%→R8:95%超)
- (2) チーム大塚による生徒支援体制の確立。
 - ア 高大接続プロジェクトチーム(KSP)を活用し、教育産業による学力分析システムを活用した学力の分析会を実施。統合ICTによる情報の共有化。
 - イ KSPによる進学指導力向上のための模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実。
 - * 進学率(4年制大学・短期大学・専門学校等)の向上(R3:90.9% R4:89.1% R5:83.4%→R8:90%超維持)
 - * 就職内定率の100%維持(R3:100% R4:100% R5:100%→R8:100%)
 - ウ SC、SSW等の外部人材の活用による教育相談・生徒支援体制の充実。外部機関とのスムーズな連携体制の確立。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:54.5% R4:66.7% R5:74.9%→R8:80%超)

3 人としての豊かな見識と情操を育てる

- (1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の育成。
 - ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障。
 - * 部活動加入率80%超を維持しながら学力の向上をめざす。生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R5:42.1%→R8:56%超)
 - イ 生徒会自治会活動の活性化により「自主的な学校行事」のさらなる促進。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:73.4% R4:79.5% R5:90.4%→R8:90%超維持)
 - ウ 松原市や松原警察署、消防署と連携した、安全指導・清掃活動・ボランティア活動の推進。1部活動1ボランティア運動を実施。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:47.8% R4:56.0% R5:73.5%→R8:80%超)
- (2) 「道徳教育推進教師」を中心とした道徳教育の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。
 - ア 人権教育推進委員会による、教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:92.5% R4:95.0% R5:92.2%→R8:95%超)
 - イ 「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。
 - * 遅刻総数を前年度比5%ずつ減少させる。(R3:513回 R4:357回 R5:519回→R8:400件以下維持)
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:91.6% R4:94.1% R5:95.0%→R8:95%超維持)
 - ウ 多様性を育み、論理的にもの考えて自分の考えを的確に伝えることのできる力の育成。
 - * 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R3:86.1% R4:89.9% R5:92.1%→R8:90%超維持)

4 体育・スポーツの地域の総合拠点校としての発展と地域交流の促進

- (1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。
 - ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。
 - イ 「大塚CUP」など、地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。
- (2) オリンピック等の国際大会出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。
 - ア スポーツ講演会の開催
 - イ スーパーインストラクター招聘事業の継続
- (3) 地域におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。
- (4) 首席、ミドルリーダーが中心となり、出前授業、学校説明会、中学校訪問など広報活動を推進する。
 - * 学校説明会延べ参加者数(R4:936名 R5:982名→R8:1000名超)

5 チーム大塚として課題解決にあたる教員集団の確立

- (1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気醸成。
 - * 教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を毎年5%ずつ引き上げる。(R3:60.7% R4:51.5% R5:89.2%→R8:90%超)
- (2) 質の向上・平準化による業務の効率化。
 - * 教職員の時間外勤務時間の平均を前年度より減少させ、時間外勤務時間月80時間以上の職員の延べ人数を減少させる。(R4:49.44H R5:53.05H → R8:45H未満、R4:延べ100人 R5:延べ116人→R8:延べ50人以下)

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
全体を通して、昨年度は一昨年度の結果と比べ全体的に大きい伸びを示した。今年度は昨年度と比べ、数値が下がった項目はあるものの大きな数値ではない。多くの項目で昨年度を超えていることから昨年度の結果を維持しつつ、さらに伸びを示していると言える。 【学習指導】 （生徒）「授業について、教え方は工夫されている」肯定率 82.3% （昨年度 81.8% ・一昨年 66.1%） 「授業はわかりやすく楽しい」 75.5% （75.5% ・60.2%） 「コンピュータや視聴覚機材などを使って発表する機会がある」 90.0%（89.6% ・81.2%） 「朝学や補習・講習は役立っている。」 68.6%（72.0% ・―） （教員）「生徒の到達度に合わせて、学習指導の方法や内容について工夫している」 93.3%（86.1% ・72.7%） 「コンピュータ等の ICT 機器を教科の授業などで活用している」 100%（97.2% ・90.9%） 「参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」 87.1%（83.3% ・75.8%） 本校の授業改善については、これまで「授業力向上委員会」「ICT 推進委員会」を中心に、タブレット端末を活用した授業改善に取り組み、昨年度は「授業力向上 PT」が中心となり初任者、10 年経験者を対象に授業力改善を進め、授業見学および研究協議に取り組んだ。今年度は首席を中心に「授業向上委員会」が中心となり、教科を超えたチームを作り、各自の課題と目標などについて話し合い、授業見学の実施、研究協議を行った。 効果として、「学習指導の方法や内容について工夫している」は昨年比 7.2%増の 93.3%に、また指導方法の工夫・改善を行っている」も昨年比 3.8%増の 87.1%に伸びた。ただし、生徒の結果からは「教え方は工夫されている」は昨年比 0.5%の微増 82.3%にとどまり、「授業はわかりやすく楽しい」は昨年と同じ 75.5%であった。これは結果の数値は高いとはいえ、教員の取り組みが生徒に伝わっていないと考えられることから、さらなる教員の工夫を行う必要があると考えられる。 昨年度から生徒への追加項目として「朝学や補習・講習は役立っている。」の項目は、昨年比 3.4%減の 68.6%となった。今後、さらに活用を進めていく必要がある。 【生活指導】 （生徒） 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 77.4%（79.1% ・70.7%） （保護者）「学校の生徒指導の方針に共感できる」 77.0%（77.5% ・70.4%） （教員） 「この学校では、生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」 93.5%（91.9% ・90.6%） 生活指導への理解について、生徒は、昨年比 1.7%数値が減、保護者も昨年比 0.5%減となっているものの、数値自体は 77%と高い数値となっており、理解をさせていただいていると考える。教員については、「組織的に対応できる体制が整っている」が昨年に続いて 90%を超えており、学校の生活指導について理解を得ていると考えられる。 また、生徒指導と教育相談（カウンセリング等）との連携については、教員は 83.9%と高い数値で、生徒は昨年から 3.4%増の 76%を超える数値となった。保護者も8割を超えた数値となっている。今後も生徒が気軽に相談できる教育相談体制を維持し、生徒支援の幅を広げていく必要があると思われる。 【進路指導】 （生徒）「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」 92.3%（90.6% ・89.8%） 「模擬試験のデータを学習や生活習慣に活かしている。」 71.3%（71.6% ・―） （保護者）「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 83.3%（86.9% ・74.8%） 「教育情報について提供の努力をしている」 83.6%（84.6% ・65.7%） （教員） 「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 96.8%（89.2% ・81.3%） 「模擬試験の結果（データ）を進路指導に活かしている。」 77.4%（83.8% ・―） 進路指導についてほとんどの項目で数値は上昇または高止まりをしている。これまで低い数値を示していた保護者の「学校による教育情報の提供努力」も昨年比 1％減の 83.6%と高い数値となった。 各学年で実施する保護者進路説明会で参加形式を校内参加だけでなく、学校に来られない保護者の方にはライブ配信で視聴できるように案内している。 また、昨年度からの追加項目「模擬試験の結果（データ）を進路指導に活かしている。」については生徒も、教員も7割を超える高い肯定率を維持している。 【学校運営】 （教員）「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」 100%（97.3% ・87.9%） 「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」 100%（100% ・100%） 「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」 83.4%（89.2% ・51.5%） 「この学校では、初任者等、経験の少ない教職員を育成する体制がとれている。」 86.7%（83.8% ・42.9%） 校長のリーダーシップのもと学校運営が行われていることがいずれの結果からも伺える。引き続き、各教員が意欲的に職務に取り組み、その能力を十分に発揮できる職場環境づくりを続けていく必要がある。 また、「初任者等、経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」については、昨年度より 2.9%増の 86.7%と、校内での取り組みが評価されていることを示している。	第1回（R6.6.17） ○学校経営計画、スクールミッションについて ・普通科の魅力発信が少ないのではないのでしょうか。 →大塚プレミアム、プレミアム+の内容をもっと広報する。 ・普通科と体育科をどう団結して部活動に取り組ませているのでしょうか。 →部活動は一緒に活動していて、レギュラー選抜などで分け隔てはない。体育科の授業を普通科の生徒も選択できるようにしている。 ・自学自習の時間の短さについての対策はありますか。 →早めに課題を生徒に渡し、取り組めるように進めていく。懇談で家庭での働きかけも促す。 ・自転車用ヘルメット着用率の低さについては、市の補助制度を活用することもできる。 ・教職員の勤務時間変更の活用状況は進んでいますか。 →朝の SHR や生徒指導部の立ち番などの業務による変更を行っている。長期休業中は部活動顧問の勤務実態に合わせた変更を行っている。 第2回（R6.11.18） ○授業見学についての意見 ・教室の環境では日光のため、ホワイトボードの文字が見えにくい。その一方で遮光カーテンのため ICT 活用時は教室が暗い。 ・体育実技では安全管理面で生徒の立ち位置など配慮が欠けており心配な場面があった。 ・英語の教科で同じ学年では共通した内容を教えているのか。 ・授業中に実施する小テストは時間を短くし、テンポよく進めたほうが良い。 ・体育の授業でニュー・スポーツも取り入れており、生徒が楽しく、生き生きしていた。 ・英語の授業で先生が上品で丁寧な言葉で、生徒に問いかける感じがよかった。 ・国語の授業では、先生がにこやかに語りかえるような口調で分かりやすく、生徒は熱心に授業を聞いていた。 ○授業アンケート結果、授業力向上委員会報告についての意見 ・委員会でどのような目標やテーマを設定しているか。 ・中学校の英語の授業ではもっと多くの英会話を取り入れており、日本語を話す時間は少ない。 第3回（R7.2.10） ○第2回授業アンケート結果について ・ICT の活用については、授業アンケートのどの部分に表れているのですか。 →教材活用の項目に表れており、教科によって活用に差があるが、国語・地歴公民・英語で進んでいる。 ・昨年度と比較して、アンケート結果の値が向上している。授業力向上委員会の成果が出ている。 ○学校教育自己診断結果と考察について ・昨年度より肯定率が上昇している項目が多い。教育活動が活性化している様子が伺える。 ○教育活動全体について ・マラソン大会で体力的に同じ距離を走らせるのはどうか。個に合わせた形でできるようにして欲しい。 →ケースが増えると管理できない面が出てくる。事前に集会で安全面を伝え、完走できない生徒には個別に対応している。無理のないように、良い行事として残していきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用	(1) ア・学力生活実態調査、ポートフォリオを活用しデータを学習や生活習慣に活かすことのできる能力を育成する。 イ・1人1台端末を活用して探究的な学びを深め、生徒のプレゼンテーション力の向上を図る。	(1) ア・生徒向け自己診断「模擬試験のデータを学習や生活習慣に活かしている」の肯定率を前年度より上げる。[71.6%] イ・生徒向け自己診断「PC等を使って発表する機会がある」の肯定率を前年度より上げる。[89.6%]	(1) ア・実力テスト結果や生活実態調査習時間をポートフォリオを活用して振り返りを行った。生徒の肯定率は71.4%と昨年度とほぼ同じ数値となった。(○) イ・各教科で探求的な学びを実践し、それを発表する機会を設けることで、プレゼンテーション力の向上を図った。生徒の肯定率は90.0%に上昇した。(◎)
	(2) 教員の授業力の向上	(2) ア・授業アンケートの振り返りシートを授業力向上に活かし、「主体的・対話的で深い学び」を授業で実践する。 イ・年2回授業見学月間を設定し、研究授業・研究協議を行う。教科を超えたテーマ(観点別学習状況の評価)による研究授業の実施。オンデマンドによる授業見学の実施。	(2) ア・生徒向け自己診断「授業について教え方は工夫されている」の肯定率80%超維持。[81.8%] イ・教職員向け自己診断「生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善を行っている」の肯定率80%超維持。[83.3%]	(2) ア・授業アンケートの振り返りシートは全教員が提出し、各自が課題改善に取り組んだ。生徒の肯定率は82.3%と上昇した。(◎) イ・年2回の授業見学月間を実施。授業力向上委員会による研究授業、研究協議により教職員の肯定率は89.3%に上昇した。(◎)
	(3) 大塚プレミアム・プレミアム+の組織的な実施	(3) ア・各教科・進路指導部・教務部が連携して、講習・補習を組織的に実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、必要な内容を講習として設定する。	(3) ア・生徒向け自己診断「理解度に応じて補習や講習が行われている」の肯定率を前年度より上げる。[72.0%]	(3) ア・大塚プレミアム(朝学・補習・講習)と大塚プレミアム+ (進学講習・公務員向け講習・看護医療系講習)を実施しが、生徒の肯定率は68.6%と昨年度より下回った。(△)
	(4) ICT機器を活用した授業の推進	(4) ア・生徒及び教員1人1台端末を活用した授業実践に向けた研修・学習会の実施や好事例を共有することで教員の授業力を図る。	(4) ア・教職員向け自己診断「ICT機器を教科の授業などで活用している」の肯定率95%超維持。[97.2%]	(4) ア・ICT推進委員会と授業力向上委員会が連携して研修を実施した。各教科ともICT機器を活用した授業が増えている。教職員の肯定率は100%に達した。(◎)
2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす	(1) 生徒自ら将来像を描く力の育成・キャリア教育の充実	(1) ア・探究活動や職業調べ、卒業生の講話を通して将来の進路や生き方について考える力を育成する。 イ・高大接続PTによる養育産業と連携した学力分析会を行い、統合ICTを活用して情報有効活用する。 ウ・「タブレット端末を活用した進路指導マニュアル」を作成し、研修・学習会を実施し教員の進路指導力の向上を図る	(1) ア・生徒向け自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90%超維持。[90.6%] イ・進学率(4年制大学・短期大学・専門学校)90%超。[83.4%] ・就職内定率100%維持。[100%] ウ・教職員向け自己診断「生徒の興味・関心、適正に応じてきめ細かい指導を行っている」の肯定率85%超維持。[89.2%]	(1) ア・探究活動や職業調べ、卒業生の講話、分野別説明会を実施した。生徒の肯定率も92.3%に上昇した。(◎) イ・高大接続PTによる分析会と研修を全体会と学年毎に分けて実施した。進学率(4年制大学・短期大学・専門学校)は84.8% (△) ・学校斡旋就職の内定率は100%を維持。(○) ウ・実力考査後にタブレットを活用し、学力及び学習習慣・学習時間のデータを学年・クラス・個人の3方向から分析し、指導に活かした。教職員の肯定率は96.4%と上昇した。(◎)
	(2) チーム大塚による生徒支援体制の推進	(2) ア・SC・SSW等の外部人材の活用による教育相談・生徒支援体制の充実と生徒支援のための各種研修(ヤングケアラー等)の実施。 イ・進路情報などを進路だよりや学年通信、HP掲載することで、保護者へ発信する。	(2) ア・生徒向け自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率75%超。[73.1%] イ・保護者向け自己診断「学校は教育情報について提供の努力をしている」の肯定率85%超。[84.6%]	(2) ア・SC・SSWによる研修を実施。教育相談室の開設回数を増やした。教員の支援体制に対する意識も高まり、生徒の肯定率は76.5%に上昇した。(○) イ・進路情報についてHPにアップするとともに、昨年度より連絡ツールで配信。一昨年度より約20%(65.7%→84.6%)上昇した昨年度の数字を今年度も83.6%と維持できた。(○)

3 人としての豊かな見識と情操を育てる	(1) 協力協働の社会的精神の育成 (2) 社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	(1) ア・「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動で学習との両立をめざす。 イ・「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。 ウ・松原市や松原警察と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動や清掃活動を推進する。 (2) ア・人権教育推進委員会・道徳教育推進教師による「大塚あったかマップ」に従った人権 HR や体験学習を実施する。 イ・「遅刻ゼロ」運動を全校統一して指導を行うことにより遅刻を減少させる。 ・「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。 ウ・行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、多様性を育み、論理的物事を考える力、自分の考えを適切に伝えることのできる力の育成に努める。	(1) ア・生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができている」の肯定率 50%超。 [42.1%] イ・生徒向け自己診断「大塚祭等学校行事は工夫されている」の肯定率 90%超維持。 [90.4%] ウ・生徒向け自己診断「授業や部活動を通して地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 75%超。 [73.5%] (2) ア・生徒向け自己診断「ホームルーム等で人権について学ぶ機会がある」の肯定率 95%超。 [92.2%] イ・遅刻総数前年度比 5 % 減少。 [519 回] ・生徒向け自己診断「挨拶や言葉遣い時間を守るなどの社会性の育成に努めている」の肯定率 90%超維持。 [95.0%] ウ・生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 90%超維持。 [92.1%]	(1) ア・部活動に加入している生徒のうち、「部活動と学習の両立ができている」は 42.5%に留まったが、学年が上がると肯定率は上昇している。時間の使い方の工夫と、学習習慣を身に付けさせるのが今後の課題。(△) イ・生徒自治会の活性化により、生徒たちが自主的に学校行事に関わるようになり、昨年、大きく数値が上昇した。今年度も 88.6%と昨年度に近い数値を維持できた。(○) ウ・松原警察から任命された、特殊詐欺防止鉄壁ディフェンス隊等の活動は活性化した。肯定率は 71.2%と目標の 75%には届かなかったが、参加生徒たちの自己発見につながった。(○) (2) ア・部落問題をはじめ様々な分野の人権学習を行った。生徒の肯定率は昨年度よりわずかに上昇し、93.3%となった。(○) イ・遅刻総数は 12 月末現在で 512 回と昨年同時期の 396 回より増加している。全教職員による協力体制強化の必要性を感じる。(△) ・朝の登校指導、あいさつ運動、マナー指導の成果があり生徒の肯定率は昨年度とほぼ同数の 94.8%を維持できた。(○) ウ・授業、学校行事、部活動などあらゆる角度から社会のルール等について全教職員がアプローチした。生徒の肯定率は 91.5%と 90%超を維持できた。(○)
4 体育・スポーツの地域の総合拠点校としての発展と地域交流の促進	(1) スポーツ交流やボランティア活動の推進 (2) 広報活動の促進	(1) ア・トップアスリートを招聘した「スポーツ講演会」や運動部活動における「スーパーインストラクター招聘事業」などを実施し、運動部部員の意識を高める。 ・高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上に努める。 イ・本校の教育資源を活用し、地元小学生を対象した「ふれあい大塚スポーツ教室」を実施し、スポーツ交流を推進する。 ・中学校運動部を招いた「大塚 CUP」を実施し、スポーツ拠点校としての交流を推進する。 (2) ア・学校 HP や学習支援連絡網の効果的な運用を図るため、首席を中心に中学生等への情報発信に努める。 ・本校で実施する学校説明会（年間 4 回実施）の充実を図る。 ・全教員による中学校訪問を実施し、本校の教育活動の周知を図る。	(1) ア・全校生徒対象の「スポーツ講演会」及び運動部活動生徒対象の「スーパーインストラクター招聘事業」の継続実施 [16 回] ・全国高校総体など全国大会への複数クラブ出場 [陸上競技部・ソフトテニス部] イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の参加者の増加 [60 名] ・地域中学校の運動部を招待した大会「大塚 CUP」等の開催 [1500 名] ・生徒向け学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 75%超。 [73.5%] (2) ア・学校説明会参加者数の増加。 [982 名] ・志願者数の増加。 [体育科:98 名、普通科 131 名] ・学校説明会、オープンスクール合わせて 4 回実施。 [4 回] ・中学校訪問数 150 校以上 [169 校]	(1) ア・オリンピックで 100m・200mの日本記録保持者の福島千里さんを招き、全校生徒対象に「スポーツ講演会」を実施。「スーパーインストラクター招聘事業」を 19 回実施。(○) ・今年度は陸上競技部が全国高校総体に出場し女子が全国総合優勝を、ソフトテニス部は近畿大会ベスト 16 入りを果たした。(◎) イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の「かけっこ教室」などに地元の 4 つの小中学生約 100 名が加し、運動部員と一緒にスポーツを楽しんだ。(◎) ・「大塚 CUP」をはじめ、各クラブが中学校運動部を招いた大会等に 1700 名を超える中学生が参加した。(◎) ・生徒向け「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率は、71.2%と昨年度よりわずかに減少した。部活動加入率減少による影響が出ている可能性がある。(△) (2) ア・体育科説明会 265 名、ワンデー大塚 200 名など説明会ごとの参加者は昨年より減少したが、説明会の回数を増やしたことや、地域での説明会の参加者が増加し、参加者数は合計 1006 名と増加した。(◎) ・令和 7 年度入学者選抜の志願者は、体育科 112 名、普通科 123 名で、前年度より延べ 6 名増加した。(○) ・学校説明会、オープンスクール合わせて 6 回実施した。(◎) ・本校に在籍している生徒の出身中学校や本校に進学の可能性のある中学校、156 校へ訪問し広報活動を行った。(○)
5 チーム大塚として課題解決にあたる教員集団の確立	(1) 全員で取り組む雰囲気醸成 (2) 業務の効率化	(1) ア・グループワークによる自主的な研修や学習会を計画する。教科・分掌の枠を超えたミーティングを定期的 to 実施する。 (2) ア・「働き方改革」に基づいて、学校閉庁日・全校一斉退庁日を設置する。「部活動の在り方に関する方針」に基づき部活動における長時間勤務を縮減する。	(1) ア・教職員向け自己診断「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定率 85% 超維持。 [89.2%] (2) ア・教職員の時間外在校等時間の月平均を前年度より減少させる。 [53.01H] ・時間外在校等時間、月 80 時間以上の教職員を前年度より半減させる。 [延べ 116 人]	(1) ア・ICT 推進委員会や授業力向上委員会による研修を実施した。連絡ツールによる迅速な情報共有の成果もあり、教職員の肯定率は 85.2%と 85%超を維持できた。(○) (2) ア・時間外在校等時間は 4 月以降毎月、昨年度より減少している。毎月の平均は 47.72H と前年度より、大きく減少している。(◎) ・時間外在校等時間 80 時間以上の教職員は延べ 102 人と前年度より減少している。(○)